

一 京都哲学会公開講演会記事

恒例の京都哲学会公開講演会は、平成十五年十一月三日(月)午後一時半から、京都大学文学部新館第三講義室において、左記のごとく行われた。

一、カント《Opus Postumum》の哲学的的位置について

京都大学大学院助教授 福谷 茂

一、神経回路網による情報の表現

京都大学大学院教授 櫻井 芳雄

講演会は数多くの会員の方々の出席を得て盛会であった。また講演会終了後、京大会館において懇親会をもち、多数の会員が講演者と共に討論と歓談のシュンボンシオンのひとときを過ごした。

二 外国人学者来訪講演会記事

平成十五年七月より、平成十五年十二月末までに、京都大学大学院文学研究科の旧哲学系諸研究室の主催のもとに行われた、外国人学者による講演会は次の通りである。

グレゴリー・P・レビン (カリフォルニア州立大学バークリー校助教授)

「アメリカの美術史界における東洋美術の受容——大徳寺五百羅漢図をめぐる」

平成十五年八月二十七日 於京都大学文学部新館第五講義室

ブライアン・S・ターナー (ケンブリッジ大学教授)

「社会資本と個人主義——ネオ・リベラル革命と近代社会」

平成十五年九月四日 於同新館社会学共同研究室

ジュニファー・ロバートソン (ミシガン大学教授)

「Sex, Gender and Sexuality in Japanese Anthropology」

平成十五年十月二十九日 於同新館社会学共同研究室

ゲーリー・T・マルクス (MIT名譽教授)

「Windows into the Soul: Surveillance and Society in an Age of High Technology」

平成十五年十一月七日 於同新館社会学共同研究室

Vladimir Sotrov (Bulgarian Academy of Sciences)

「Calculus I: A Realization of Leibniz's Programme」

平成十五年十一月二十日 於同東館COE研究室

王 琢 (中国海南大学教授)

「王国維と明治學術思想」(岩城科研特別講演会：近代中国の美学美術史学)

平成十五年十一月二十二日 於京大会館

邵 宏 (中国華南大学教授)

「近代中国における西洋美術史研究——一〇〇年を振り返って」(岩城科研特別講演会：近代中国の美学美術史学)

平成十五年十一月二十二日 於京大会館

三 京都大学文学部(哲学系) 卒業論文題目

—平成十五年三月—

哲学

- 大塚 淳 スピノザの因果性について
 - 福島 裕介 フッサール『イデーンI』における認識論の構造
 - 古田 龍啓 ヴィトゲンシュタイン『哲学研究』における意味論
 - 大和 真理 レヴィナス『全体性と無限』における「他」概念について
 - 大西 琢郎 『論理哲学論考』における対象と言語の関係について
- 西洋哲学史
- 大木 崇 アリストテレスにおける「動」の定義について
 - 矢田 健 『純粹理性批判』における超越論的演繹の論理
 - 山本 麻由 ライブニッツ形而上学における無限の問題
- 倫理学
- 石田 直人 ノーマライゼーションにおける就労
 - 石塚 泰年 遺伝子組み換え食品に関する議論の検討
 - 清水万由子 琵琶湖の富栄養化防止条例と石けん運動
 - 林 誓雄 ヒューム正義論における動機について
 - 細川 啓介 レヴィナスにおけるエロス論
 - 櫻井 牧人 ファイル交換・共有ソフトの規制問題
 - 若井 貴史 三浦つとむの規範論

安齋 香織 ネット上の匿名性と人間関係について

宗教学

- 末永絵里子 「ある」と「他者」—レヴィナスにおける「他者」以前—
 - 立川 俊之 聖性の黄昏—マックス・シェーラーの宗教現象学及び哲学的人間学にみる可能性—
 - 武田 歩 オスマン朝からトルコ共和国へ—イスラーム国家から近代的国民国家への変革過程におけるナショナルリズムとアイデンティティの問題—
- 渡部 寛 作家村上龍
- キリスト教学
- 渡部 雄満 キリスト教とセクシュアル・マイノリティ
- 美学美術史学
- 佐伯 希 ユダの衣について
 - 澤村 斉美 『芦引絵』の画面構成について
 - 玉津 沙枝 渡辺始興論
 - 中田明日佳 ジョルジュ・ド・ラトゥール『みどりご』をめぐって
- 中村 史子 セルフポートレート論—私と世界と—
- 松石 徳仁 ルネ・マグリットの絵画思想とその限界
 - 荒井 裕子 土佐光則「源氏物語画帖」について
 - 有馬 雄太 レヴィナスにおける感受性—「他者」との結び目としての—

奥山 耕平 ベルトソン哲学における言語

加藤 瞳 禅林寺阿弥陀如来立像について

須田 絢一 視覚的イメージから物語へーイタロ・カルヴィーノの文学観ー

西菌 由依 クルト・シュヴィッターズ、そのカラージュ作品を中心

東海 岳史 音楽における、マックス・ウェーバーの合理性について

土居 哲真 生成的映画論 諏訪敦彦監督作品を参考に

仏教学

池口 龍法 Mahayanasutralamkara XI

dharma-pariṣtyadhikara の研究

心理学

池田 尊司 典型色が色の記憶に与える影響

真柴 晶子 認知様式における文化と加齢の影響

向山きよみ REM睡眠及び入眠期の夢体験の特性比較

森口 祐介 幼児における知識と行動の分離に関する研究

登本 明子 見知らぬ人に対する乳児の行動及び情動表出

社会学

市川 裕子 女性雑誌に見る21世紀女性像のゆくえ

今西 武史 恋愛についての一考察

岩倉 達哉 サスペンス映画の社会的考察

延命 聡子 戦後日本の文化的転換期に関する考察

荻布 裕子 スローフード運動から考える新しい地域活性化

北島 義和 農村・女性・起業ー長野県生坂村の事例からー

坂本 行平 レゲエとラストファアリズムの社会学の考察

下西 秀人 二十世紀日本農村社会の変遷ー名田庄村永谷の100年を事例にー

鈴木 真理 痴呆性老人介護の社会学の考察

竹内 以子 <やおい>を巡る女性の社会心理

藤堂 奈穂 外食文化に関する社会学の考察

服部 多希 「ケータイ」世界の社会学的一考察

浜田枝里子 靴の文化社会学

福嶋 聖淳 プロレス空間におけるプロレスラーとオーディエンスの相互作用分析

藤田統紀子 育児不安の社会学的研究

方堂 利恵 子供の他者意識に関する社会学の考察

松田 敬之 現代社会に於ける音楽芸術のアウラの社会学の考察

松本 輝之 ロックミュージックの文化社会学の考察

光島 元太 学校教育におけるデジタルメディアの役割についての考察

村山 類 魔女狩りの社会学

岩井 篤史 携帯電話文化と若者のライフスタイル

堤 恵 既成仏教後継者の意識に関する宗教社会学の考察

若林 伸頭 海外長期旅行者を通して見える日本社会の一段面に関する社会学の考察

鈴木 香織 化粧の社会学

科学哲学科学史

ジ―再考―

杉本 舞 C・E・シャノンの暗号理論

田中 泉吏 感情の由来と機能

山口健太郎 E・ローレンツとカオス

谷尻 和宣 ヴェサリウスの泌尿器官研究

日本哲学史

安積百合香 福沢諭吉の「智」に関する一考察

岡田 安弘 西谷啓治における「科学と宗教」の現代的意義

倫理学

三輪 恭久 デューイにおける探求と価値に関する一考察

山本圭一郎 J・S・ミルの功利主義と自由原理について―功利主義的斉議論についての一考察―

四 京都大学大学院文学研究科(哲学系) 博士前期(修士) 過程終了論文題目―平成十五年三月―

哲学

池田 真治 ライブニッツ知識論における無限

薄井 尚樹 クワインにおける自然主義と規範の問題

田中 貴子 ベルクソンにおけるエラン・ヴィタールと自由

宗教学

平野 徹之 可能性と普遍

キリスト教学

大橋 仁夫 アレイオス主義の神論と救済論についての一考察

今出 敏彦 創始としての公共―ハンナ・アーレント『精神の生活』における「意思」の意義―

西洋哲学史

加藤 見人 トマス・アクィナスにおける快と行為の関係

佐藤 慶太 トレルチにおける歴史主義と「決断」

萩 和子 ソクラテスの敬虔について―『エウテュブロン』を中心に―

森 健一 トマス・アクィナスにおける啓示神学の確実性の保証―「教師」としての神の役割の観点から―

藤当 雄治 カントにおける人格について

山口 雅弘 トマス・アクィナスの行為論における意思の自由

渡邊 琢 カント理論哲学における「Form」概念について

小葉 隆生 ダイモーンと偽りの誓い―エンペドクレスのデモロ

中国哲学史

永淵 正是 漢の皇帝と国家―その宗教性について―

美学美術史学

宮崎 もも 酒井抱一筆「五節句図」に関する考察

寺本 里絵 中世から近世にかけての物語絵―制作と享受―

仏教学

大観 慈聖 ラトナーカラシャーンティのタントラ注釈書

心理学

藍田 佳世 視空間性ワーキングメモリと中央実行系の関連性
足立 幾磨 ヒト以外の動物における概念形成能力についての比
較認知心理学的研究

岩田 佳奈 ハムスターの空間探索における環境の幾何学的情報
と物体の符号化

金田みずき 長期記憶情報の利用における中央実行系の役割―二
十課題下での直後系列再生課題による検討―

坪見 博之 順序知覚における Attentional Blink―視覚的注意
の時間的処理限界が順序知覚に及ぼす影響―

社会学

遠藤 理子 仕事と家庭のあいだ

片田 朝日 子供のジェンダーと相互行為の社会学的研究

久保田智行 派遣労働の社会学的考察

佐々木雅彦 オンライン・スポーツファンについての社会学的考
察

佐藤 寛之 アルコホリズムにおける介入の諸相に関する社会学
的考察

科学哲学科学史

小野田波里 一般相対性原理について

佐野 勝彦 時間様相の非反射性について

五 京都大学大学院文学研究科(哲学系) 博士後期課

程学修者氏名―平成十五年三月―

哲学

佐々木崇

西洋哲学史 石田真衣子 多田光宏 西尾浩一

日本哲学史 川端伸紀

倫理学 鶴田尚美 林芳紀

宗教学 若見理江 今村純子 土佐明

キリスト教学 川桐信彦

美学美術史学 皿井舞 姜素妍 碓井みちこ

仏教学 志賀浄邦 津田明雅 白濱海太

心理学 石田開

社会学 阪本博志 水野英莉 村田康子 坂部晶子

科学哲学科学史

高木学 宮武実知子
澤井直

前号目次

宗教は私的な事柄であるか……氣多雅夫
 さいは投げられたのか……出口康夫
 —確率論の応用の正当化と科学的経験の超越論性—
 否定神学化する哲学……関根小織
 —J・L・マリオンの宗教哲学—
 意味論的真理とその病理性について
 ……金田明子

特集「心の科学」

神経回路網による情報の表現
 ……櫻井芳雄
 新世界ザルにおける「ころ」の理解
 ……黒島妃香／服部裕子／藤田和生
 赤ちゃんの心の成り立ち……板倉昭二
 行動と錯視……蘆田宏
 「心の理論」の脳内表現……宇阪直行
 * *
 カント《Opus Postumum》の哲学史的位置
 についで……福谷茂
 自然の第一の法……深谷訓子
 —十七世紀初頭のネーデルラント絵画における
 「キモンとペロー」—

次号論文予告